

# インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) オオノゼミ
文京学院大学	経営学部	大野ゼミ

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ゲンキンシュギハン	フリガナ) サイトウ マミ	4	無	
現金主義班	齋藤 舞美			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

調査時に使用したアンケート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

Cashless～時代と共に生きる～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

日本では現金支払いが主流である。日本の現金流通量は GDP の約 20% だ。しかし、先進国の平均は 5%、キャッシュレス化が進んでいる北欧では 1% ほどしかない。このことからわかるように、日本は先進国の中でもキャッシュレス化が大幅に遅れている。さらに、現金の製造費用に年間 700 億、現金を流通させるために必要な輸送費などに年間 2 兆円という多額の費用がかかっている。それらの費用は私たち国民の負担である。そうした中でも、日本の現金流通量は年々増加していた。その一因として、若者のキャッシュレス離れが挙げられる。調査の結果、30 歳以上のミドル世代よりも 20 代の若者世代のほうがキャッシュレスを取り入れていないことがわかった。若者はキャッシュレスを取り入れたい気持ちはあるものの、「お金の管理が難しそう」などキャッシュレスにマイナスのイメージを抱えていることからキャッシュレスに対して消極的であることがわかった。そこで、私たちはこの問題を解決し、キャッシュレス決済を若者に浸透させることで日本経済を活性化させる対策を提案することを目的とする。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

100億円キャンペーンを掲げたスマホ決済がCMを賑わせたり、コンビニ各社から決済サービスが開始されたりなど、日本は近年キャッシュレスによる決済が盛んである。しかし、日本の現金流通量はGDPの約20%、先進国の平均は5%である。他の諸外国の現金流通量が減少傾向であるのに対して日本は年々増加していた。このことから、日本のキャッシュレス化は先進国の中でも大幅に遅れているといえるだろう。さらに、現金の製造コストは年間700億円、現金を流通させるために年間2兆円のコストがかかっており、その費用は我々国民の負担である。多額の費用を負担しているにも関わらず、なぜこれほどまでに日本での支払いは未だに現金が主流であるのか。それは、若者のキャッシュレス離れがあった。支払い時に現金を希望する割合は20代が最も高く、20代のクレジットカードの保有率は他の年代よりも低い。このことから、30歳以上のミドル世代よりも20代の若い世代のほうがキャッシュレス決済よりも現金支払いを支持していることがわかった。

## 3. 研究テーマの課題

日本は、先進国の中でも大幅にキャッシュレス化が遅れている。現金を流通する際にかかる膨大なコストは国民の負担であるにも関わらず未だに現金支払いが主流である。これは、20代の若者世代が支払い時にキャッシュレス決済よりも現金支払いを好むことや、クレジットカードの保有率が他の年代に比べて低いことなどキャッシュレスに対して消極的であることが関連していると考えられる。しかし、若者はキャッシュレスを拒んでいるわけではない。本学のキャッシュレスを取り入れていない学生を対象にキャッシュレスを取り入れたいか聞いたところ7割以上の学生が取り入れたいと回答した。一方で、「お金の管理ができなくなり、お金を使いすぎてしまうのではないか」という不安の声が多く挙げられた。そこで不安が解消されれば今後キャッシュレスを取り入れたいか聞いたところ8割の学生が取り入れたいと回答した。しかし、キャッシュレスについてやサービスについて知るためには複数のサイトをまたぐ必要があったりとキャッシュレス初心者に対して、情報の入手が優しくないことがわかった。このような現状から若者は知識不足によってキャッシュレスにマイナスのイメージを持ってしまったり、キャッシュレスを取り入れたい気持ちがあるものの不安から取り入れるのを躊躇してしまうといった課題があった。

## 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

今の若者はキャッシュレスに対して詳しく知りたくない環境にあり、キャッシュレスに対して様々な不安を感じていた。また、本学のすでにキャッシュレスを取り入れている学生を対象にキャッシュレスを取り入れる際に何を参考にしたらアンケートを行ったところ、家族や友人の意見を参考にしたいという意見が最も多く、その次にネットの情報を参考にしたいという意見が多かった。アンケートに回答した学生に詳しく話を聞くと、「まずはネットで調べた」、「ネットで調べてもわからなかったため家族や友人に意見を求めた」という人たちが数多くいた。学生たちはキャッシュレスを知るためにネットで情報を集めていた。しかし、上記でも挙げたようにネットでキャッシュレスに対して知るのには難しいという課題があった。このことから私たちは、キャッシュレス初心者でもネットで一からキャッシュレスについて知れるようになれば若者にもキャッシュレスが取り入れやすくなるのではないかと考えた。そこで、【キャッシュレス初心者のために網羅的サイト】による情報提供を提案する。キャッシュレスについて何も知らない学生でも学びやすいように、キャッシュレスのメリットやデメリット、不安に対するQ&Aなどをひとつのサイトでキャッシュレスの基本的なことはすべて知れるようなものにしたと考えている。

また、経済産業省が掲げるキャッシュレス推進の策に若者向けの具体案がなかったため若者のキャッシュレスに対する現状を知ってもらい若者へのキャッシュレス推進を働きかけたい。キャッシュレス推進策として一般社団法人キャッシュレス推進協議会というものがあった。銀行や食品業界、コンビニなど様々な企業が参加しているが学生団体はなかった。今後は、そちらと協賛を取れるようにしたい。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

WEB上のアンケートだけではなく、実際に本学の学生にアンケートを行い、生の学生たちがキャッシュレスに対して思っていることを調査した。また、キャッシュレスの現状を知るためにWEBで多くの情報を集め、より詳しい現状分析を行った。さらに、キャッシュレスについてだけではなく増税や軽減税率、ポイント還元などについても調べ一つの観点ではなく様々な知識を得た上で研究を進めた。

## 6. 結果や今後の取り組み

今回の研究の結果、若者世代はキャッシュレスに抵抗があることがわかった。その一因として、キャッシュレス初心者向けの情報収集が困難であること、その結果若者にキャッシュレスのマイナスなイメージがついてしまっていることがあげられた。なので、私たちはそれを解決するためにキャッシュレス初心者向けの網羅的サイトを提案した。今後の取り組みとして、まずはキャッシュレスの専門家に話を聞きサイトの内容を深める。次に、私たちの解決策に賛同してくれる協賛企業を見つけ、実際にサイトを開設できるようにしたい。最終的に、経済産業省に若者にキャッシュレスが浸透するように働きかけたい。

## 7. 参考文献

「決済速度に関する実証実験結果」『JCB グローバルサイト』

<https://www.global.jcb/ja/press/00000000162855.html>

「クレジットカードに関する総合調査」 JCB

[https://www.global.jcb/ja/press/news\\_file/file/20170217.pdf](https://www.global.jcb/ja/press/news_file/file/20170217.pdf)

「数兆円の負担に？日本の“現金信仰”コスト」日テレ NEWS24

<http://www.news24.jp/articles/2018/02/07/06385085.html>

「20代の4割が「キャッシュレス化」を望んでいない—普及の鍵を握るのは？」 CNET Japan

<https://japan.cnet.com/article/35133248/>

「キャッシュレス決済実態調査」 NIRA 総合研究開発機構

[https://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n180928\\_907.html](https://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n180928_907.html)

「なぜキャッシュレス化を国は進めようとしているのか」『銀行員のための教科書』

<https://www.financepensionrealestate.work/entry/2018/05/04/090902>

「政府がキャッシュレス化を進める理由 1.6兆円コストカットも狙い」『マネーポスト WEB』

<https://www.moneypost.jp/534095>

「スタバの行列がゼロに!?新サービス「モバイルオーダー&ペイ」明日スタート」『マネー現代』講談社

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/65465>

「キャッシュレス・ロードマップ 2019」一般社団法人キャッシュレス推進協議会

[https://www.paymentsjapan.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/04/Cashless\\_Roadmap\\_2019.pdf](https://www.paymentsjapan.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/04/Cashless_Roadmap_2019.pdf)

「キャッシュレス・ビジョン」経済産業省

<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf>

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返信いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**